

「オレンジレッシン。」・・・

私が望む幸せが、ここに、ありました。

初めて「オレンジレッシン。」に出逢ったのは、まだ本の形にもなっていない時で、書きあがったばかりの原稿をプリントアウトし、主人公クミやチャッピーの中に自分のエピソードを見付けて、なんだか嬉しいような、くすぐったいような感覚の中で、イッキに読んでしまいました。



ターボさんの愛犬ディアと

読み終わった時、涙がぼろぼろと出てきたことを今でもはっきりと覚えています。

自分の離婚するまで、離婚してからの道のりを思い出したというもありますが、そこに私が望んでやまなかった幸せの形が、ハッキリとあったからです。

私が離婚したのは、今から5年ほど前になります。主人公クミのように、最初は別居、そして離婚調停を経て正式に離婚となりました。

元夫側の言い分もあるでしょうから、ここで私側の離婚原因を述べるのは避けますが、離婚経緯はクミの状況と酷似しています。

クミと同じく、私はゴールデンレトリバーの「ルナ」を飼っていました。

私にとっては私の長女のような存在で、ルナの存在にとっても癒されていました。

別居の際、いったん置いて出たものの、クミと同じように元夫から飼えないことを分かっている連れてこられたルナは、私の実家で面倒を見てもらえることになり、「絶対、一緒に住めるようなところに引越しが出来るように、お母さん頑張るから待っててね」と約束しました。

ですが、何をどう頑張っているのか分からないまま、時給800円のパートを「続ける」ことしか出来なかったのです。

別居のときに、夫名義で買ったローンが残っていたパソコンを奪うようにして持ってきたことで(ローンもしっかり付けてくれましたが(笑))、パソコンを使って何か出来ないのだろうか、と常に考えていました。

そんな時に電話勧誘に引っかかり高額ローンを組まされて、パソコンによる仕事を斡旋してくれるという業者に引っかかったり、今から思えば本当に世間知らずというか、稼ぎたいという焦りから正常な判断が出来ていなかったと思います。

幸い、生活苦から始めたネットオークションでは毎月そここの収入になるようになりましたが、そのオークションからの収入が、まだ一か月分のパート代にもならないうちに、思い切ってパートを辞めてしまいました(笑)

その背景にあったのが、(有)ママリング社長である井後史子さんとの出会いでした。彼女とは得意とする分野が真逆で、一緒に何かをやれば加速したことと、お尻の重い私と反対でフットワークが軽く、引っ張る、止める、がバランスよく出来たのではないかと思います。

「一緒に頑張れば“ヤレル”んじゃないか？」

そんな思いが、無謀にも退職ということをやったのけられたのだと思います。その頃から「やっぱり私は書くことが好きだ、これで食べていけたらどんなに幸せだろう」と思うようになったのです。

そして、彼女が(有)ママリングを設立したことをキッカケに、私は子供の頃からの夢であった「物書きになりたい」という仕事を本格的にやっといこうと決心しました。もちろん、それだけでは全然食べていけないので、ネットを使って自分でやれることを模索し、色々なことにチャレンジもしました。

支えは2人の娘たち、見守ってくれる大切な人、そして…実家に置いてきたルナでした。ペンネームにルナの名前を使ったのは、決して忘れないために…そして、ルナを引き取れたときに、私の夢は叶っていると信じていたからです。まるで月の輝きのように光る黄金の毛色を見てつけた「ルナ」という名前を、私が使うことで夢が叶うと思い、「月野るな」とつけました。

けれど、ルナと一緒に住む夢は叶うことはありませんでした。実家に預けて1年半が経った頃、食事をしなくなったと連絡を受けたときはすでに遅く、ルナはもうガンに侵されていたのです。まったく食べなくなり、やせ細っていました。最期は私が看取ろうと、ペット禁止の我が家に連れて帰り、看病しました。もう、ほとんど寝たきりで、食事は受け付けず、ひどい下痢に悩まされながら一ヶ月が経過し、桜

が咲いて散った4月初旬。

ルナと一緒に桜を見ようねと言った私の最後の願いを叶えてくれ、私の腕の中で逝きました。大家さんに犬がいることがバレて、一週間後のことでした。

しばらく泣いて泣いて「ルナは私のところに来て幸せだったのだろうか」と自問自答の日々。一緒に住もうね、の約束を果たせなかった自分が悔しくて、力がない自分がはがゆくて。

・・・「オレンジレッシン。」の最後は、そんな私の夢が叶っていました。望んでやまなかった、私の幸せがありました。

ネットビジネスに関わり、気が付けば、色々な方との素晴らしいご縁に恵まれたり、収入的にはステップアップをすることも出来ましたが、「月野さんにとっての幸せな成功とは？」と聞かれると、何か喉の奥に魚の小骨が刺さったかのように、うまく言えない自分がいました。

その答えが「オレンジレッシン。」にあったんですね。

私がいつも思っていたことがあります。「経済的にも精神的にも、自立出来るようになりたい」と。

シングルマザーですから、稼げない好きなことだけをやって生きていくことは出来ません。その部分で葛藤があったのは事実です。けれど、その稼ぐという部分だけを見つめすぎて、自分自身で首を絞めていたように思います。私の生い立ちにも大きく関係していることですが・・・。

シングルマザーだから、と負い目に感じていたところがありました。仕事も、恋愛も、シングルマザーだということが不利だと思っていた自分がいました。なのに「子供がいるから仕方ない」と言い訳の代名詞のように使っていたんです。

そして、「自分の成功の形」という根っこの部分を見失っていったのだと思います。

「オレンジレッシン。」の最後には、まさに私がずっと夢見ていた私の姿が、主人公クミになってありました。子供とルナがいて、経済的に自立し、仲間に囲まれ、幸せに微笑むクミの姿。

これは私の脳に強く焼き付けられた、私の成功へのイメージ画像となりました。

私は、まだ「自分なりの成功」への階段を登っている途中です。
小さな住まいで、子供の横で“ちゃぶ台”のようなパソコンデスクで仕事をしています。
引き取りたいと願ってやまなかったルナは、この世にはもういません。

「るなさんはもう成功されているんじゃないですか？」
と云ってくださる方もいらっしゃいましたが、私が望む幸せでない限りは私の成功ではないような気がします。
その望む幸せは、人から見たらささやかな幸せかも知れません。

でも、私はそれこそが私の成功だと信じています。
そこに到達して初めて、次のステップに幸せに進めるのだと。

私が「書く」ことを、誰よりも喜んでくれた天国の亡き祖父。
「麻紀(私の本名です)の本が出たら、おじいさん、この部屋いっぱいになるくらい麻紀の本を買ってやるからな」と云ってくれた祖父に、その夢がが叶ったことを報告できる日が、必ず来ると信じています。

最後に、私が叶えられなかったルナと暮らすという夢を「オレンジレッシン。」で叶えていただけたことを、心より嬉しく思っています。
ステキなステキなストーリーを書いてくださった犬飼ターボさんに、心より感謝しております。

「オレンジレッシン。」を読まれた皆さまの心に「オレンジ色の招待状」が届きますように。

世界にたった一人しかいない、あなたの、あなただけの「幸せに成功できる喜び」を見付けていただけますようにと願ってやみません。

月野るな
(家氏麻紀)

<http://profile.ameba.jp/tsukino-luna/>

